

〈三郷学の視点⑦③〉

三郷学の実践

58. 地域づくりのプロセスとしての傾聴・提案・合意

まちづくりは、身近な地域への思いをきっかけに始まります。しかし、関係者の意見が異なることが少なくありません。

そのため、地域づくりのプロセスにおいては、関係者が賛成や反対という主張をするだけでなく、その背景にある利害や関心を聴き、その声に少しでも多く応え得る提案をみんなで創意工夫することが大切です。このようなプロセスを経ることで、さまざまな関係者が満足できること、少なくとも納得できる状態になることで合意形成につながります。

実際の合意形成には、さまざまな要因が複雑に絡み合

(実際の合意形成を難しくする要因例)

- これまでの経緯が絡んでいる。
- 「聞いていない」といったことが起きてしまうなど情報提供のタイミングが悪い。
- 「ボタンの掛け違い」といわれるような事業の進め方の手違いがある。
- 問題が生じたあと迅速な対応ができず後手にまわり状況が悪化している。

うことから、関係者の関心を丁寧に整理し、柔軟に考えることで様々な選択肢をみつけることが求められます。結論を焦るのは禁物です。合意形成に時間をかけることが円滑な実施につながります。このような合意形成のノウハウは、公共事業による地域づくりのみならず、地域活動をしている団体や企業での会議など、さまざまな場で活かすことができます。

※「関係者」には、影響を与える人、影響を受ける人、事業に関心のある人などが含まれています。